

DAMZINE



第10号
2008.3



イメージキャラクター「しま」

○ここにフォーカス! 長島ダム

頼もしい、ダム貯水池

○ダムジン・レポーター体験記 第3回

ダムの内部を探検してきました!

○長島ダムのなぜなぜサイエンス

○あっぱれ! ナガシマニア

○大井川流域ライフ

○伝えていきたい故郷の民話「ひじり坊」のお話

○春の訪れを真っ先に告げる川根本町周辺の桜スポット!



ここにフォーカス! 長島ダム

頼もしい、ダム貯水池

長島ダムの建設によって、大井川には接岨湖と呼ばれる貯水池が出現しました。この貯水池は、ナゴヤドーム62杯分といわれる巨大なもの。たくさん水をたたえた貯水池は、いったいどのように管理されているのか…今回のテーマは「長島ダムの貯水池」です。貯水池にある珍しい施設や、安全や環境を守るための活動をご紹介します。

長島ダムの貯水池は、
こんな施設に守られています

① ダム

川の水をせき止める施設。「洪水の調節」「河川環境を守る」「かんがい用水の確保」「水道用水の確保」「工業用水の確保」という5つの役割があります。

② 管理所

ダムや貯水池の維持管理に関する、各種機器が設置されています。日常のダムの維持管理をはじめ、洪水調節など、非常時の中心的な役割を果たします。

③ 艇庫(ていこ)

貯水池および周辺の斜面を巡視するために、また水質や堆砂の状況調べ、網場で止めた流木を処理するために…ダムは「巡視船」と「作業船」を保有しています。それらの船を格納しておく施設です。

④ 係船設備

ダムが保有する「巡視船」と「作業船」を艇庫から貯水池まで移動させるための施設で、地山斜面にインクライン(急斜面鉄道)を設けています。

⑤ 噴水・曝気(ばっき)施設

貯水池の水質対策施設の1つ。噴水用ポンプの加圧・攪拌・水滴による効果が貯水池の表層部における水質改善を行います。

⑥ 網場(あば)

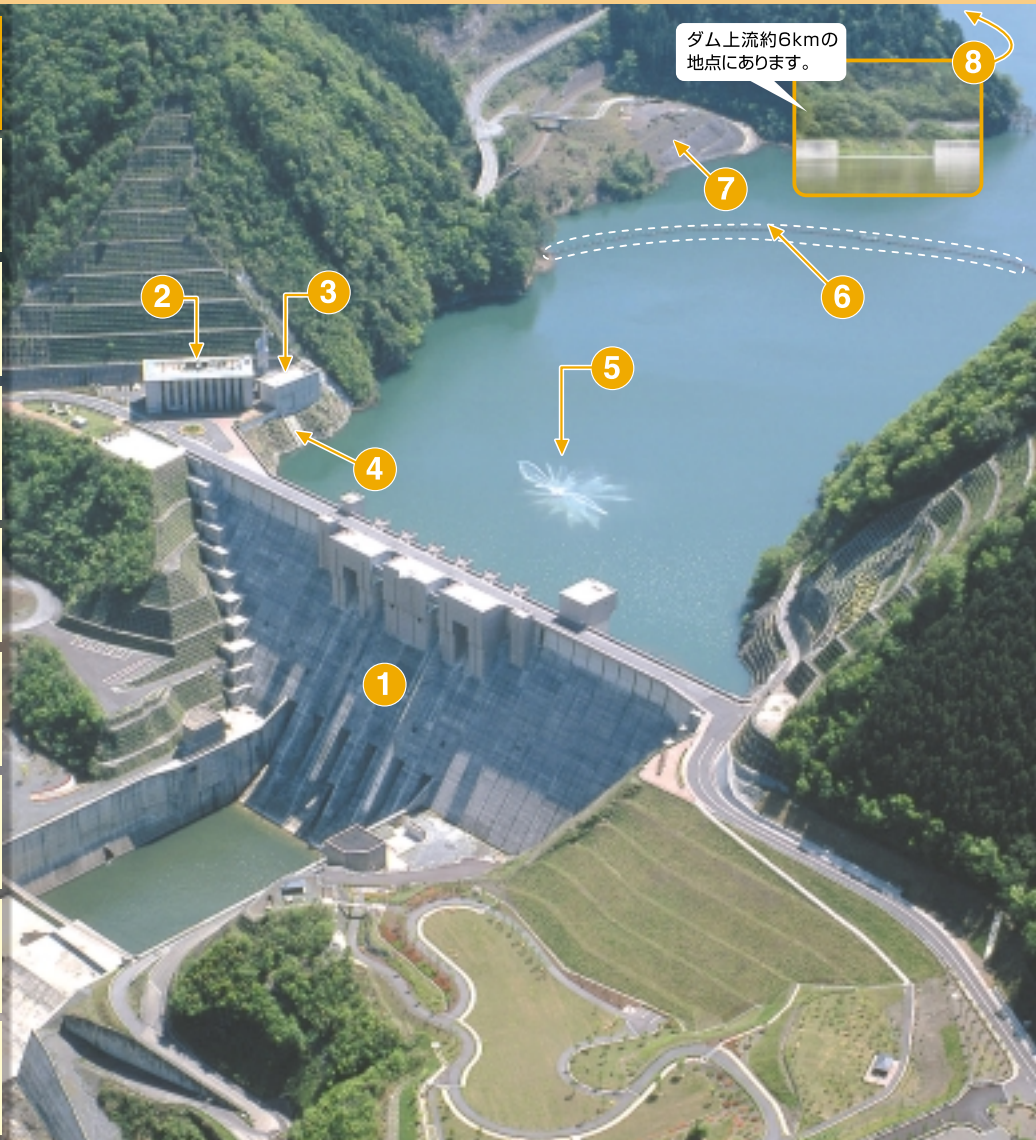
貯水池内に流れ込む流木やゴミなどを止めるための施設。ダムのすぐそばで、貯水池を横断するように配置されます。

⑦ 流木引上道路

網場で止めた流木やゴミを回収するための道路。ダム建設中、天端道路と河床部の移動のために使用した工事用道路を利用しています。

⑧ 貯砂ダム

貯水池に流れ込む土砂を、上流で止めるための施設。長島ダムの貯砂ダムはダムの上流約6kmの地点にあります。



□ 貯水池の安全と環境を守るために

さまざまな施設が設けられています

上の写真からわかるように、貯水池の安全や環境を守るために、長島ダムの貯水池には多くの施設があります。「噴水」などが水をきれいに保ってくれたり、「貯砂ダム」が貯水池に流れ込む土砂を少なくしたり…。一見「安全管理」とは関係のないような周辺施設が、実は貯水池の維持管理を支えています。たとえば艇庫の屋上に設けられたダムの「展望台」は景色を楽しむだけではなく、貯水池を監視することができます。また「大井川鐵道井川線」の駅舎は、貯水池の邪魔にならないように位置が考えられています。



大井川鐵道井川線

「巡視活動」「監視活動」をつねに行っています

長島ダムでは、職員たちが車や船で貯水池をパトロールする「巡視活動」を行っています。巡視車では週に2回、ダムの周辺道路をぐるりと周回。水の色に変化はないか、道路沿いの柵が壊れていないか…などをチェック。また巡視船で週に1回、貯水池を見回ります。水面に不審なモノが浮いていないか、山の崩落状況は危なくないか…をチェックします。さらに河川の様子をつねに見守るために、CCTV(監視カメラ)が各所に設置されており、必要に応じ、24時間体制で監視することができるのです。



巡視船

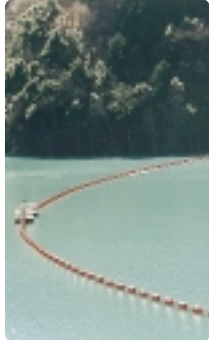


CCTV(監視カメラ)

貯水池周辺の施設は、こんな働きをしています

流木を取り除くために

ダム貯水池には、上流域からたくさんの流木やゴミが流れ込んできます。これは山林の開発や洪水時の土砂流出、斜面崩壊などが原因。これらは貯水池の景観を損なうと共に、水質を低下させたり、放流設備に悪影響を与えたりして貯水池の機能に大きくダメージを与えます。このような“困りもの”の流木やゴミを捕まえて適切に処理するための施設が「網場」。網場によって補足した流木は、作業船によって「流木引上道路」付近まで移動させ、そこから作業車で搬出し、チップ化の処理を行うなど有効活用しています。



網場



通船ゲート

貯水池を管理するために巡視船等が通過できるように、網場に設けられる施設。



流木引上道路



係船設備

土砂を少なくするために

河川には水と一緒に土や砂も流れています。ダムで河道を堰き止めることで、そこに新たな貯水池ができると共に、土・砂の堆砂現象が発生するのです。ダムの計画においては、必要な貯水容量を決める、つまりダムの高さを決める際に、治水や利水に影響が出ないように「堆砂容量」を確保します。しかし貯水池周辺の地質・地形・気象条件等によっては、その量は膨大なものとなってしまう、ダムの規模が巨大なものになりかねません。そのため土砂が貯水池に流れ込む前にそれらを補足する施設、「貯砂ダム」を設けています。



貯砂ダム

水をきれいに保つために

貯水池の水は「かんがい用水」「水道用水」「工業用水」等に使用されています。水質に問題があると、下流の暮らしや農作物、工場の機能などすべてに影響が出てしまうので、つねにきれいな水質を保つ工夫が必要となってきます。いったん貯水池に貯まることによって、水質にはさまざまな問題が発生する可能性があり、特に植物プランクトンの大量発生による“富栄養化問題”への対策として「噴水・曝気施設」が設けられています。



噴水・曝気施設



水質計

貯水池の水質、濁り等を計測管理するための施設。

斜面の崩れを防ぐために

貯水池周辺の山の斜面は、ダムが建設されたことによって、とても不安定になる場合があります。たとえば貯水池の水が山の斜面を浸す。新しい道路の建設によって山が削られる…など。そのような状況になりがちな山の斜面の変化を監視するために、巡視船や巡視車が活躍します。また、斜面が崩れるのを防ぐために「法面処理」という加工を施してあります。



法面処理工

ダム貯水池が変化しても斜面が崩れないよう保護するための施設。



ここがスタイリッシュ!

長島ダムのデザインチェック!

close up
手すりとひさし

ステンレス製のスタイリッシュな「手すり」や「ひさし」

長島ダムの天端付近からの眺めは絶景ですが、天端そのもののデザインにも独自の工夫が込められています。

たとえば展望バルコニーの高欄(周囲の壁)の上部には、ステンレス製の「手すり」を設置していますが、ステンレス板の使い方、形、仕上げに独自性を持たせています。また、下流側の中央に三角形につき出した展望テラス(「タイタニック」)も、ステンレスとガラスで設計されており、ダムの壁面を覆う自然石とステンレスのシャープな質感がマッチして、長島

ダム独特の洗練された雰囲気を生み出しています。エレベータ室の入口に設置された「ひ



さし」も、展望バルコニーの手すりやデザイン、材質を統一したステンレス製となっています。

このように「手すり」や「ひさし」といった細かなディテールへのこだわりが、長島ダムの美しさを演出しているといえるでしょう。



ダムジン・レポーター 体験記

第3回 ダムの内部を探検してきました！

2月のさむ～い土曜日に決行された第3回のレポート。ダム内部を探検するというワクワクのイベントだけあって、参加者は史上最多の16名。職員の方に案内されて、約2時間のダム探検を楽しみました。

今回は、通常のダム見学では入ることのできない場所にも行ける特別コース。ダムの神秘に迫る、貴重な体験でした。



START!

6名で参加の八木ファミリー、5名の飯田ファミリー、そして林さんご夫婦、さらに第1回からオール参加の宮本ファミリー。総勢16名が並んで、恒例の「行ってきま～す!」



見学の前に、職員の方から長島ダムについて説明を受けます。ダムがつくられた理由、ダムの役割、ダムの施設…みなさん真剣に聞いてます。



まずは管理所の3階にある「操作室」へ。ゲートの開閉をはじめ、ダムの操作はすべてこの部屋から行います。洪水の時などはここに職員の方がスタンバイして操作を行うんだとか。

B2



地下2階の「ゲート室」は水を放流するゲートと操作機器が設置されている2階建て構造。長島ダムには、日本最大級の大きさを誇る巨大な常用洪水吐きが6門設置されています。「すごい迫力!」とみなさん感心しきりでした。



今度は夏に
来たいなあ。

さあ、いよいよダムの内部へ!地下2階の「監査廊」を歩いていると、「もうここは水の中なんですよ。」と言われてびっくり。ダムの監査廊は夏でも20℃くらいだそう。

B4

さすがに空気も
湿った感じ…



エレベーターで地下4階へ。さあ、ここからは通常のコースではいけないシークレットゾーンです。



地下4階はダムの最深部。ダム湖の底よりもっと低い地点です。ここではダムの漏水量を計測する「漏水量計」、漏水によって発生する揚圧力を低減する「ドレーン孔」などの設備を見ることができます。さすがに水音が聞こえたり、足下が濡っていたりと、上層部とはちがった雰囲気でした。

B3

おっきい鉄管!



ダムの最深部から少しのぼって、次は地下3階の「発電施設」へ。長島ダムで使う電気は、ほとんどダム自身で発電しているそうです。大きな発電水圧鉄管を、おそろおそろさわって「冷たい!」



発電用の水車もさすがに巨大。こんなに大きなダムの電気を発電しているのですから、当たり前かもしれませんが、万が一、湧水などで発電ができなくなった時にも電力はきちんと供給されるので心配は無し。

長島ダムを
身近に
感じました。

ふだん行けない
スポットを
たくさん見られて
良かったです。

いろいろ勉強に
なりました。

楽しかった!

GOAL!

そしてゴールのダムの天端に到着!最上階から最深部まで、ダムをたっぷり堪能した2時間でした。みなさん、おつかれさま!



地下3階から階段をのぼると…今度はダムを真下から望む場所に出してきました。こんな近くからダムを見上げるって、なかなかできない体験。雪がちらつく寒い日でしたが、みんな気にせず「おお～大迫力!」と撮影大会。



「予備ゲート室」を見たり、五角形の珍しい「管理橋」から放水するダムを見下ろしたり…。



さて、いよいよコースも最終ポイントに。さらに45°の急階段をのぼり、エレベーターで最上階へ。



「洪水調節」って、 どうやって行われるんだろう？

A

「洪水吐き」という施設が、 流れ出す水の量を調節しています

ダムには「洪水吐き」という施設があり、これを開け閉めすることで流れ出る水の量を調節します

たとえば「大きなバケツにつけた蛇口」をイメージしてください。大きなバケツが「ダムとダム湖」。蛇口が「洪水吐き」です。大きなバケツには上流から流れてくる水が貯まります。そこで蛇口を大きく開けるとたくさんの水が流れ出し、逆に蛇口をぐっと絞り込むと水は流れ出さずにバケツに残ります。「洪水吐き」という蛇口がダムから流れ出す水の量を調節することで、洪水を軽減できるのです。

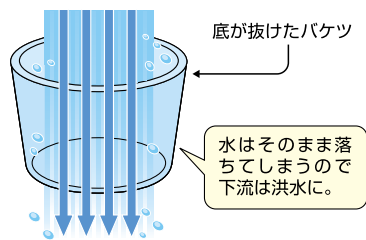
長島ダムには洪水調節のために、日本最大級の大きさの「洪水吐き」が6門設置されています。またダムの上部には「非常用洪水吐き」があり、万が一ダムが満杯になってもダムから水があふれ出さないように、流すことができるようになっています。

「洪水吐きゲート」の実物大模型が、長島ダムの管理所ロビーに展示されているんだって。

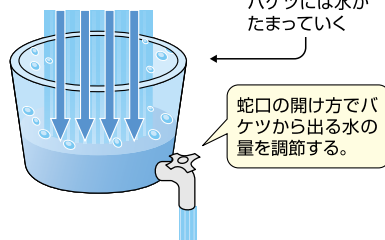


洪水調節のイメージは

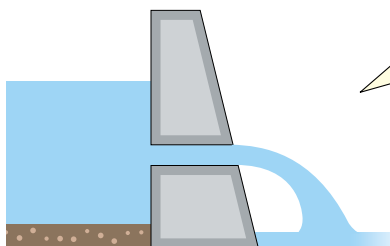
■ダムが無い場合



■ダムがある場合



長島ダムで調節できる洪水の量は

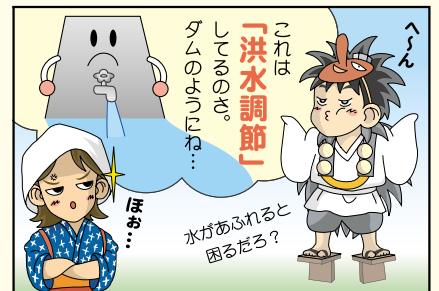
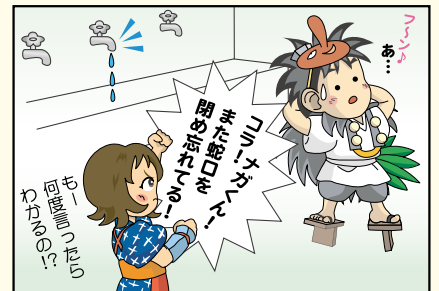


100年に1回起こる可能性のある洪水に対してダムに流れ込む毎秒6,600m³の洪水を、毎秒5,000m³まで減らして放流できます。つまり、毎秒1,600m³の洪水調節ができます。

※計画は、上記のように洪水調節を行います。現在は下流域の状況にあわせて暫定操作を行っています。

ナガとしまの4コマ劇場

しまちゃんの怒りは調節不能



あっぱれ！ナガシマニア

今回のナガシマニアさん

中川根語り部の会「話楽座」会長 澤井 初美さん

民話を読み解き、語るとき昔の人々の声が聞こえてくる。

「話楽座」は地域に伝わる民話を発掘し、「語り部」を養成しながら人々に伝えていくグループです。中川根商工会が行う地域振興活性化事業として、平成11年にスタートしました。現在は月に1度の「語りの会」を行うほか、年に1度の「語り部まつり」の舞台に立ったり、小学校やディサービスから依頼を受けたりと、精力的に活動しています。なぜ「話楽座」を始めたのか…土地に伝わる民話とは、昔の人々の暮らしぶりを伝える貴重な資源・財産だと思っからです。川根地方のお話は、貧しい生活の中でも助け合って生きる人々が描かれているものが多く、知るほどにこの地域の人間性の温かさが

見えてきます。生まれも育ちも「川根っ子」の私としては、これらの民話を埋もれさせてしまうわけにはいきません。

語り部たちは現在、40代から70代まで約11名。民話の語り部とは「ただお話を暗記する」だけでなく、聞きやすいように言葉をアレンジしたり、自分なりの解釈を加えながら物語を広げていく作業が必要であり、ひとつのお話を1～2年かけてマスターします。そのために講師の先生を招いて勉強会を開催するなど、聞く人に感動を与える語り部を身につけるべく、各人が日々努力を重ねています。また、これまでは中川根地区の民話だけを語ってききましたが、合併して川根本町となつてからは、本川根の民話も開拓して活動の範囲を広げていきます。語り部は常時募集中ですので、興味のある方はぜひご連絡ください。



大井川流域ライフ

vol.4

流域には多くの伝説や神楽が伝えられています

大井川流域の歴史を知るには、土地に伝わる伝説や芸能、神事を辿ることも大切です。先人たちの暮らしぶりや、祖先の伝えたいメッセージが、これら民俗資料の中に浮き彫りにされることが多いのです。

大井川流域の歴史をもっと知りたいと思いませんか？



この土地に根ざした伝説の数々は先人たちのメッセージが込められています

ナギと蛇骨伝説

大井川流域では山地崩落のことを「ナギ」と呼び、人間もその犠牲になってきました。ナギに関わる伝承は多く、代表的なものが「蛇骨伝説」です。

「ある時、大蛇が山をひっくり返した。跳ね返った石が飛び、沢は石だらけになった。大蛇は怪我をして死に、沢からは今でも蛇骨のような白い石が出る。村人が蛇骨沢で白骨を拾ってきたところ、村に疫病が流行した。これは大蛇の祟りだとして大井川にその骨を埋めた。」このようなお話が多いのは、土砂が崩落した後が大蛇が暴れた後のように見えるからで「ナギの起こった地には近づくな」という警告が込められています。



昭和57年に崩落した八木のナギ

溪流魚伝説

大井川流域ではヤマメ、イワナやウナギなど溪流魚や淡水魚に関する伝説が多くあります。

「昔、千右衛門という男がヤマメ漁に出かけた。淵に大ヤマメの姿が見えたので網を打ったが魚はかからず不思議だと思っていると「もう一網千右衛門」という声が聞こえた。気味悪くなって家へ帰った。」溪流魚に関わる伝説は多く、いずれも淵から不思議な声が聞こえたり、奇妙な内容です。これは人々の足を淵から遠ざけ、魚の乱獲を防ごうとしたものと考えられています。

巨人伝説

巨人伝説は全国各地に伝えられていますが、大井川流域ほど集中しているのは珍しいといわれます。

「昔、ダイダラボッチという巨人が朝までに大きな山を築こうとしてモッコで土を運んでいたところ、ある家の女が朝唄を歌った。ダイダラボッチは朝が来たことを知って姿を消した。その土が小丘として残った。」造山伝説、地名起源伝説などの巨人伝説は、大きな自然環境への畏敬の念から生まれたと考えられます。



ダイダラボッチ伝説の小丘

各地に伝わる「神楽」は現在も続いている郷土芸能となっています

「駿河神楽」と「ミサキ神楽」の系譜

大井川流域には多くの「神楽」が伝承奉納されています。いずれも駿河の山間部に伝承される「駿河神楽」の系譜ですが、駿河神楽の特長を持ちながら「ミサキ神楽」と呼ばれる特徴的なものもあり、これは「田代大井神社」「坂京」「崎平」「平栗」「青部」といった地域で3年ごとに順送りで行う風習があります。ミサキ神とはいわゆる「崇り神」で、この地で殺された僧の祟りを鎮めるものといわれ、駿河神楽の分布圏の中でも、特に川根本町周辺に広がっている特有の信仰です。



青部熊野神社の「猿の舞」

田代大井神社のユニークな神楽

田代の大井神社には2つの神楽が伝わっています。一つは、3年に1度施行するミサキ神楽、もう一つは毎年正月17日に施行する祭典神楽。祭典神楽とは田楽・田遊び系の芸能のことですが、その演目構成を見ると、駿河神楽の系譜を継ぐミサキ神楽と祭典神楽が混成しています。本来は神事に所属する演目が田楽・田遊び系の芸能にスライドしていたり、またその逆も…。このような現象は、青部の熊野神社にも見られます。長い歴史のうちに「神事」と「田遊び」が混成されてきたユニークな神楽が、この地域の特長なのです。



田代大井神社の「舞舞」

室町時代から伝わる梅津神楽

「梅津神楽」は、梅地地区のこだま石神社、若宮神社に約500年前から伝わる伝統行事。その由来は室町時代に京都の梅津区(現右京区)から都落ちした筑紫一族がこの地に村を開いて氏神を勧請、自ら神主となって社前で奉納したのが始まりだといわれています。梅津神楽にも「ミサキ送り」という神事がありますが、いわゆるミサキ信仰とは異なる流れを汲むもの。梅津神楽は舞い手と笛、太鼓、見物人が一体となって演じられ、他の神楽にはない魅力があるといわれています。

*田代神楽、梅津神楽は県の無形民俗文化財に指定されています。

参考資料「本川根町史」通史編4

伝えていきたい故郷の民話 「ひじり坊」のお話

むかし、今から320～330年前のある寒い夜の出来事です。
山から吹き下ろす風は冷たく、手や足がちぎれそうな寒さ
きびしい夜でした。一人のお坊さんが、坂京の一軒の農家
に立ちよりました。その姿は見るからに寒そうで、とても気
の毒な様子でした。お坊さんはガタガタふるえながら戸口
に立って、「こんばんは。わたしは旅の坊主ですが、寒くて
寒くてたまりません。少しいいから火にあたらせてください。」
とたのみました。すると、その家のおばあさんは、お坊さん
の姿を見て、とてもかわいそうに思い、「さあさ、その錫杖
をそこに置いてあたっていい。」と、お坊さんがわきに置こ
うとした錫杖を受け取りました。そして、その錫杖を棚の上
にのせようと持ち上げたとき、「これはたまらん、たすけ
てくれえ。」何をかん違いしたのか、お坊さんはあわてて立
ち上がり、きゅうに逃げ出しました。

おばあさんには何が何だかわからなかったけれど、(逃げ
ていくということは、もしかすると泥棒じゃないか)と思い、
大声で「泥棒だあ。」とさげびながらお坊さんのあとを追
かけました。それを聞いた坂京の人たちも集まってきて、み

んなでお坊さんを追いかけてました。お坊さんは「助けてく
れえ、おれは泥棒じゃない。たすけてくれえ。」と叫びながら
坂道をかけおりにいきます。村人たちに崎平の人たちも加
わって、手に手に石を持ち、大井川まで追いつめ、いっせいに石を投げつけたのです。お坊さんはいっしょうけんめい
逃げ回りましたが、大きな石が頭にあたり、とうとう死んで
しまいました。

その次の年、崎平の村に悪い病気がはやり、村人たちはと
ても苦しみました。「こりゃあ、きっとあの坊さんのたたりに
違いない。」「ほうっておいたら大変なことになるぞ。」する
とある村人が「お坊さんをちやあんとおまつりしたらどうだ
ろうか。」と言いました。それを聞いた村のまとめ役が相談し
て、お坊さんを八幡神社の境内にまつことになりました。
それからというもの、悪い病気もおさまり、平和な暮らしに戻
ったので、「ひじり坊」として今でもおまつりしています。



崎平の八幡神社には、ひじり坊の供養塔と思われる「石」が今でも残されています。また、坂京地方に伝わる「ミサキ神楽」は、この「ひじり坊」の祭りを鎮めるための神事だといわれています。

春の訪れを真っ先に告げる 川根本町周辺の桜スポット!

川根本町周辺は有名な桜の名所がたくさんあります。
中でもとびっきりのスポットを紹介!

家山の桜トンネル(川根町)

国道473号沿いの約1kmに樹齢70年のソメイヨシノがずらりと並び、満開時にはピンク色のトンネルのよう。その幻想的な風景は毎年、人々を魅了します。桜トンネルのすぐ横には大井川鐵道が走っており、「桜吹雪の中を走るSL列車」を眺めることも。



- 開花時期/3月下旬～4月上旬
- アクセス/大井川鐵道家山駅から徒歩約10分
- 問い合わせ/0547-56-4587(川根町地域振興課)



徳山のしだれ桜(川根本町)

川根高等学校と町営サッカー場の間にある、しだれ桜の並木道。約50本のしだれ桜が150mにわたって咲き誇る風景は、ふくらみ始めたつぼみの頃も満開も、そして花吹雪の頃も絵になる美しさ。春の川根本町を華やかに彩って県外からも多くの人々が訪れます。

- 開花時期/3月下旬～4月上旬
- アクセス/大井川鐵道駿河徳山駅から徒歩約5分
- 問い合わせ/0547-59-2746(川根本町まちづくり観光協会)

ダムジン 第10号『DAMZINE』読者アンケート

- 本誌をどこで入手しましたか。
 長島ダム 駅 公共施設 道の駅
 その他()
- 面白かったと思う記事を教えてください。(いくつでも結構です)
 ()
- 今後「ダムジン」で取り上げてほしいテーマはありますか?
 ()
- その他、「ダムジン」や「長島ダム」についてのご意見やメッセージがありましたらお聞かせください。
 ()
- 川根本町で、あなたのお気に入りの場所、オススメのスポットを教えてください。
 ()

川根本町イベント情報

川根本町まちづくり観光協会

4~5月

春から初夏の花ごよみは、桜だけではなく、この季節、川根本町には可憐な花々が咲き乱れます。



●寸又峡・外森山のアカヤシオ 見頃 4月上旬



●大札山のアカヤシオ 見頃 4月中旬



●大札山のシロヤシオ 見頃 5月中旬

■問い合わせ/川根本町まちづくり観光協会

■TEL/0547-59-2746

ホームページもご覧ください URL: <http://www.okuooi.gr.jp>

編集後記

今回のダムジン・レポーターは、募集をはるかに超える応募が殺到!当初より参加人数をぐっと増やして、総勢16名での決行となりました。ふだん見ることのできないダムの内部に、大人も子供も興味津々。約2時間かけてダムの隅々までじっくり探検するコースは、階段の上り下りなどもあってかなりハードでしたが、一人の脱落者もなく全員無事ゴールされました。くわしくは3ページをご覧くださいね。またレポーターの企画は引き続き行う予定ですので、今後の募集をお見逃しなく!

訂正とおわび

ダムジン9号の「ダムジン・レポーター体験記」文中において誤りや誤解を招く表現がありました。

- 「アオツラフジ」は「ヨウシュヤマゴボウ」の誤りです。
 - 「クサギ」は実でなく若葉が食べられます。
 - 「まむし草」「アオツラフジ」「ヨウシュヤマゴボウ」はすべて有毒で食べられません。
- 誠に申し訳ありませんでした。今後、表記について更なる調査と確認を徹底いたします。

アンケートハガキからご紹介!

おしゃべり アトランダム

掛川市 Mさん

4歳の息子は川やダムが大好き。ダムジンを読んでいろいろ学んでいます。

小田原市 Mさん

長島ダムが新しい工法で造られたことをはじめ、長島ダムのことをたくさん教えてください。

伊東市 Fさん

8号の「ためき和尚」ですが、伊東にも「狸の掛け軸」という、そっくり同じお話があります。狸が描いたという亀の絵も保管されているそうで…不思議ですね。

島田市 Mさん

カジカ蛙の生態をクローズアップした記事が読みたいと思います。

藤枝市 Mさん

大井川の歴史、文化、民俗、自然…についての本が少ないので、「大井川流域ライフ」や「伝えておきたい故郷の民話」を興味深く読みました。

静岡市 Mさん

小学生の孫を連れて長島ダムに行ってきました。孫はダムのビデオを見て、水の大切さを実感したようでした。「大きくなったらまた友だちとダムに行く」と言っております。私は桜の咲く頃に「家山の桜トンネル」を訪れるつもりです。何度行っても良い所ですね。

みなさまのお便り、ご意見を アンケートハガキに書いてどんどん送ってください。またイラストや写真も大募集!送付先は「ダムジン」編集係まで。このコーナーで紹介させていただきます。

※「ダムジン」編集係にお寄せいただいたハガキ、イラスト、写真などは「ダムジン」に掲載する事柄以外に使用いたしません。

■ お問い合わせ

国土交通省 中部地方整備局 長島ダム管理所

〒428-0402 静岡県榛原郡川根本町大間541-3

TEL:0547-59-1021 FAX:0547-59-1026

E-mail: naga482@po4.across.or.jp

U R L: <http://www.cbr.mlit.go.jp/nagashima>

■ 長島ダムご案内



長島ダムの情報誌は季刊誌です。次号(第11号)は2008年7月に発行予定です。